

令和3年度西予市市政懇談会会議要録

開催日時 令和3年11月16日(火) 19:00~20:46
開催場所 惣川公民館
出席者 参加者 23人 市側 8人 市長 管家一夫、教育長 松川伸二、 総務部長 山住哲司、政策企画部長 下澤広幸 産業部長 酒井信也、建設部長 三瀬計浩 教育部長 宇都宮裕、野村支所長 和気岩男 事務局他 17人
議事内容(要旨) 1 開会 2 市長あいさつ 3 地域づくり活動センターに関する説明 (1) ①地域づくり活動センター推進計画(案)について(まちづくり推進課長説明) ②公民館分館について(生涯学習課長説明) (2) 組織体制(案)について(総務課長説明) 4 質疑応答 (意見等) 高齢化率が66%、平均年齢が68歳と地域行事をなんとかやっている状況。現在、惣川公民館は、3人の常勤職員を置く配置になっている。かつて、災害があつて、数日間孤立した時も、公民館が中心となって対応してくれた。災害のことを考えると、常勤館長がいないことに、不安がぬぐえない。野村からの距離もあり、地域づくり組織だけでは、対応できないこともある。今度のセンター化に伴い、常勤館長から非常勤館長にすることはどうしてもしないといけないのか。 (回答 政策企画部長) センター化後は、非常勤の館長をおくことを想定している。 (回答 総務部長) 確かに距離があり、職員が到達するにも時間要する。しかし、基本的には、自主防災組織などで対応いただき、職員が到着するまでは地域で対応をしていただきたい。今後、地区の防災計画なども考えながら、一番良い方法を模索していきたい。 (意見等) 日直・夜直の廃止については反対ということで、先般まちづくり推進課と

協議した。すべて一律にするのではなく臨機応変にやっていただきたい。こういった方法であれば残すことができるのか伺いたい。

(回答 教育部長)

基本的には、今回の推進計画案の中では、日直・夜直は廃止をしていく考え。今までどおりのやり方を希望されていることは理解している。カギを直接受け渡す、鍵付きのポストを使うなど、地区内で話していただいて、よりよい形で運用できる方法をご検討いただきたい。

(意見等)

地区の事務局を公民館主事がしてくれていて、助かっている。地域任用職員がその事務が出来ない場合、センター主事が担当することは可能か。また、令和5年4月までに地域任用職員を雇用できなかった場合、雇用出来るまでセンター職員が地域づくりの業務を担当するのは可能か。

地域任用職員が地域外から来た場合地域がそれを受け入れられるか心配している。地域任用職員にトラブルが生じた場合、地域の責任になるのか、行政がどこまで関わっていただけるのか。

(回答 政策企画部長)

地域任用職員については、地域づくり組織の事務局・会計、地域課題の抽出・企画・運営支援、地域住民との連絡調整、地域づくりにおける「きっかけ」「仕掛け」「働きかけ」など、地域に関わる活動、また諸団体の運営支援などが出来る方をできるだけ選出していただきたい。なかなか目途が立たない場合は、事務局とも相談いただき一緒に考えていきたいと思う。

トラブルが発生した場合、案件に応じては、地域づくり団体の責任にはなるが、必要な支援はさせていただきたいと考えている。

(意見等)

一般行政職員を地域づくりに参加させることはできないのか。

(回答 教育長)

社会教育と地域づくりに線を引いて関わらないということではできないと思う。令和5年4月1日に100%の形で地域づくり活動センターをスタートすることが困難な地域もあると思うが、行政と地域が協働で取り組んでいきたい。

(意見等)

センター長が非常勤、それに地域任用職員が追加ということであれば、惣川は現状の体制よりもマイナスになる。その辺りの検討の余地があれば考えていただきたい。

(回答 市長)

検討はさせていただく。センターの狙いの1つは、行政と地域が一体となって、自分たちが住んでいる地域を自分たちで理想の姿に持って行こうとすること。惣川出身の館長と職員を配置することが理想かもしれないが、それが維持できない状況がもう目の前に来ている。令和5年4月1日からの取り

組みを考えるなかで、道が開けるのではないかという気がしている。

(意見等)

今日、質問したような内容を先般、惣川で協議をしたときに伝えたら、「検討」「可能ではないか」「話し合いを進めています」という回答だった。今日の会議で、今日はっきりとした回答がほしいと話したはずだがどうなっているのか。

便利な町中とここを一律に考えないでほしい。

(回答 まちづくり推進課長)

いろいろな関係者と調整する必要がある、地域の方の意見ももっと聞きながら進めていく必要がある、今回もこのような回答になっている。令和4年度中に挙がっている課題を解決しながら進めさせていただきたい。

(回答 生涯学習課長)

話し合いは必要なこと。どのような方法で課題を解決できるのかは、もう少し双方で時間をかけて話をする必要があると思っている。今後も検討を続けていきたい。

(意見等)

大野ヶ原は小学校内にセンターができると広報に書いてあった。本当に両立できるのか。

新しい施設が建つという話もある。どうなっているのか。

(回答 政策企画部長)

大野ヶ原の方と話す中で、小学校よりも集会所を利用しようという話が出てきたところ。今後も進めていく。

(意見等)

地域づくり活動センターについて、令和5年から10年かけてと言われたが、10年たったらここには人が居なくなる。

初めにあったように一律な考えではできない。柔軟な対応を検討してほしい。惣川では、公民館長を主体にしてやっている。日直夜直にしても今便利なものがなくなることが不安だから、質問している。

(回答 市長)

10年経過したら、人が居なくなるというのではなく、地域の皆さんからの声、そして行政がお聞きしながら一緒にやっていかなければならないと思っている。検討にご協力いただきたいと思っている。

(回答 教育長)

私が住んでいる地域でも人口は減っている。それでも何とかしようとセンターに取り組んでいる。悲観的な話ばかりでは、前に向いていく可能性がなくなってしまう。

(質問等)

惣川はとにかく人材がいない。センター長をやってくれる人はまず珍しいと思う。

(回答 教育長)

そこは、膝をつめて話していく必要があると思う。令和5年4月に完璧な状態ではスタートできないかもしれないが、その後も柔軟に対応していく。

行政と地域が一緒に知恵を出しながら進めさせてほしい。

(意見等)

2人の子どもがいるが、共働きのため野村保育所に通わせている。共働きなので、預かり時間の短い惣川幼稚園に入れるのは難しい。惣川幼稚園を認定こども園のようにできないか。

(回答 子育て支援課長)

野村幼稚園に保育機能を追加するためには、保育室の増設、調理場が必要なため、現状難しい。

(回答 市長)

給食室の話は、小学校を活用できないかなど研究するので、時間をいただきたい。制度も変えないといけないので、国へ要望も必要になり、いろんな設備について検討させていただきたい。

(意見等)

コロナが少し落ち着いて、土居家にも少しずつ宿泊客が戻りだした。アフターコロナのことも見据えて惣川や土居家のことをもっとPRしてほしい。

(回答 市長)

わかりました。

コロナの関係でいうと、西予市への移住が増えている。移住で一次産業の関係で来られる方もいる。惣川には空き家も多いので、移住用に転用するなら補助制度もある。今後の取り組みの1つに考えていただきたい。

5 閉会のあいさつ  
教育長

6 閉会